

国際交流つうしん



p4 多文化共生出前講座



p5 国際フェスタCHIBA

目次

- P.2 千葉県の地域日本語教育の推進
- P.3 千葉県外国人児童生徒等教育の方針
- P.4～5 事業報告（令和3年3月～6月）
千葉県国際交流センター長着任挨拶
- P.6 今後の行事予定
あなたの街の国際交流・協力団体 ～NPO法人生涯学習応援団ちば～
- P.7 JICA千葉デスクのページ
- P.8 千葉県から世界へ！～ナミビア共和国～

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**

働く場面が動画でわかる

ゲンバの日本語 基礎編

働く外国人のための日本語コミュニケーション

ゲンバの日本語 応用編

働く外国人のための日本語コミュニケーション

一般財団法人海外産業人材育成協会 著
各1,320円(税込)

製造業・IT産業の現場で働く方、技能実習・研修を受ける方に最適。『基礎編』は日本語初級前半レベル、『応用編』は初級後半レベルの方向け。5か国語訳付。

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>



広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は **出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…

 **千葉県行政書士会**

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



県では、外国人の日本語教育に関して本県が抱える課題を整理し、地域日本語教育を推進するための具体的な取組をまとめた「千葉県地域日本語教育推進事業プラン」を策定しました。本プランに基づいて、県内全域を対象に地域日本語教育の充実に取り組んでいきます。

策定の背景

千葉県で生活する外国人の方は令和2年末時点で16万7千人を超えますが、その中には、日常生活に必要な日本語でのコミュニケーション力が十分でないために生活に困難を抱える方もいます。外国人県民が地域の一員として安心して暮らすためには「地域日本語教育」を充実させることが有効と考え、県は令和2年度に地域日本語教育に関する実態調査を実施し、その結果を踏まえて「千葉県地域日本語教育推進事業プラン」を策定しました。



基本的な目標

- I 日本語を母語としない全ての県民が、各自のニーズに応じた日本語教育を受けられる環境の整備
- II 地域の日本語教育に関わる県、市町村、千葉県国際交流センター・市町村国際交流協会、日本語教室、日本語教育機関、事業者、県民が連携・協働してそれぞれの役割を果たす体制づくり



取組の柱

県では基本的な目標を実現するため、以下の取組を行っていきます。

- 1 地域日本語教育の人材の不足や高齢化に対応するため、新たな人材を養成していきます。
- 2 学習者のニーズに応じた学習機会が得られるような環境を作ります。
- 3 地域日本語教育の関係団体間の連携を強化するためのネットワークづくりなどを行います。

令和3年度の取組

令和3年度、県では以下の事業を実施します。

- 総括コーディネーターを配置し、関係団体間のネットワークの構築、日本語教室が不足する地域での新規教室の立ち上げ支援、日本語教育人材のマッチング等を行います。
- 新たに日本語ボランティアとしての活動を希望する方を対象とする養成研修を実施します。

日本語ボランティアの養成研修や、ボランティアの募集をしている教室の情報は千葉県国際交流センターでも随時発信していきます。ご興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせください。

【参考URL】

千葉県地域日本語教育推進事業プラン

https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/nihongo_suishin/plan.html



千葉県国際交流センター ホームページ (<https://www.mcic.or.jp/ja/>) では

- ・あなたの町の日本語教室
- ・子どものための日本語教室
- ・日本語学校

の情報を掲載しています。

- ◆情報 随時更新中
- ◆新たな教室が開設されましたら、お知らせください。

千葉県国際交流センター 日本語事業担当 Tel 043-297-0245

E-mail nihongo@ccb.or.jp



ホームページ



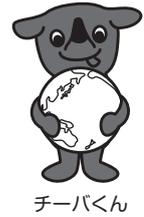
「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」を策定しました!

千葉県教育委員会

近年、県内に在住する外国人の増加に伴い、日本語指導が必要な外国人児童生徒等も増加しており、様々な指導・支援が必要となっています。

そこで、千葉県教育委員会では、「第3期千葉県教育振興基本計画」及び「千葉県多文化共生推進プラン」をもとに、今後の外国人児童生徒等の教育が充実するよう、令和3年3月に「千葉県外国人児童生徒等教育の方針」を策定しました。

令和3年度より、本方針を推進していく3か年計画を立て、千葉県で学ぶ外国人児童生徒等の未来が輝くための指針となるよう、全力で努めていきます。



基本的な考え

①すべての児童生徒に多文化共生の資質を育む。

・相手を理解し、「違い」を認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度を養う。

②多文化共生の教育を担う教師の育成及び、受け入れ体制を構築する。

- ・研修の仕組みや体制を作り、教員の意識を変えることができる研修機会を構築する。
- ・市町村の受け入れ体制整備を支援する。

重点化の視点

日本語指導体制の構築

日本語指導が必要な全ての外国人児童生徒等に、日本語指導教員による指導が行えるようにする。外国人児童生徒が集まる拠点校の設置や、日本語指導担当教員等が各学校を巡回する等、地域の実態に即した体制を構築する。

研修機会の拡充

日本語指導担当教員等の資質能力向上のため、日本語指導方法及び多文化共生等に関する研修機会を拡充する。

不就学児童生徒への対応

外国人児童生徒等の就学において、市町村教育委員会が首長部局等と連携して保護者等への働きかけが行えるよう指導・助言する。

主な取り組み

外国人児童生徒等教育の指導・支援体制

- No.1 行政担当者連絡協議会の設置
- No.2 日本語指導を必要とする生徒への支援体制の構築(研究)
- No.3 重点支援校の設置
- No.4 幼児教育の推進
- No.5 外国人児童生徒等の心のケア(カウンセリング)等について
- No.6 外国につながる障害のある児童生徒等および家族への支援

就学・進学・就職の支援等

- No.10 就学担当者会議の開催
- No.11 外国人の特別入学者選抜の実施
- No.12 県教育委員会HPによる支援

多文化共生意識の醸成

- No.13 外部関係機関や支援団体との連携
- No.14 異文化理解の促進

教員・相談員等の配置・養成

- No.7 日本語指導に係る研修・情報提供の充実
- No.8 日本語指導担当教員の配置
- No.9 外国人児童生徒等教育相談員の配置・語学ボランティアの要請



外国人児童生徒等教育の質向上に向けて

グローバル化が加速する現代において、外国人児童生徒等の教育が充実していくことは、地域に活力をもたらし、共生社会の実現にもつながります。

千葉県教育委員会は、この方針に掲げた基本的な考えや重点化の視点を県民の皆様や市町村、関係団体等と共有し、連携しながら外国人児童生徒等の教育の充実を目指してまいります。

【参考URL】

- 千葉県ホームページ 外国人児童生徒受入れ
<https://www.pref.chiba.lg.jp/cate/kbs/kyouiku/gakkou/gaikokujin/>

- 千葉県外国人児童生徒等教育の方針
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaikokujin/documents/houshin3.pdf>
<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/gaikokujin/documents/gaiyouban3.pdf> (概要版)



◆多文化共生出前講座（小学生版）

令和3年度多文化共生出前講座（小学生版）について

千葉県国際交流センターでは、令和2年度に引き続き、多文化共生出前講座（小学生版）を実施しています。令和3年度は千葉市立幕張小学校4年生3クラス、千葉市立幕張西小学校5年生5クラス、柏市立柏第八小学校6年生3クラス及び、成田市立八生小学校3、4年生クラスがモデル校となり、県内で多文化共生を楽しく学べる学習指導案と教材動画を公開する予定です。



千葉市立幕張小学校4年生を対象に実施しました！ 6月23日、30日

千葉市立幕張小学校では、ベトナム、オーストラリア、ペルー、トルクメニスタン、ネパール、スウェーデン出身の6人の講師が23日、30日に講演を行いました。ベトナムルームで繰り広げられたベトナム式「へびジャンケン」や、民族衣装の「アオザイ」の試着には子供たちも大喜び。オーストラリアルーム、ペルールームでは、様々なバックグラウンドを持つ人々が共に生活することの大切さを学び、差別や偏見など世界共通の社会問題について考えました。ネパールルームでは、伝統楽器である「シタール」のプロ奏者でもある講師が、得意の音楽を通じて子供たちと楽しく交流し、ネパールの教育格差についての問題を提起しました。スウェーデンルームでは神秘的なオーロラの動画に大感動！ジブリ映画「魔女の宅急便」の舞台となった街も紹介されました。トルクメニスタンルームで披露された、実物の民族衣装には子供たちも興味深々。講師の気さくな人柄で、一躍子供たちのヒーローになりました。



多文化共生出前講座では、事前学習で講師の出身国について調べ、考えを広げ深め、講師と楽しく交流し、見て聞いたことをクラスで共有する活動などを行うことによって、外国と日本の似ているところや、違うところを体感することのできる小学生向けのワーク型プログラムです。日本や世界が直面している社会問題に目を向け、子供たちが普段の生活の中で「今できること」を考えるきっかけとなるような講座にしていきたいと思えます。



千葉県外国人相談

わからないことや困ったことがある外国人のみなさん、お気軽にお電話ください。適切な専門相談機関も紹介できます。

○相談できること

職場で困っている、生活に困っている、家族やパートナーから暴力を受けている、離婚したい、在留資格を変更したい、健康保険、介護保険、年金等の制度*がよくわからない、病院にかかりたい、子供の教育をどうしたらいいか、日本語を勉強したい等…。

*国民健康保険、介護保険、国民年金、生活保護等の具体的な手続きはお住まいの各市町村の外国人相談窓口にお問い合わせください。

○使える言葉

日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語、ネパール語、ヒンディー語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語（13言語）

TEL : 043-297-2966

一人で悩まず、早めに相談を！



外国人のための無料法律相談

こんな相談ができます

- 弁護士への相談：離婚、家族やパートナーによる暴力、労働問題、事故、人権侵害等
- 行政書士への相談：在留資格の申請・更新・変更、起業手続き等

◆今後のスケジュール

日程	弁護士	行政書士
9月6日（月）	○	
9月25日（土）	○	○
10月4日（月）	○	
11月1日（月）	○	
11月20日（土）	○	○
12月6日（月）	○	
1月15日（土）	○	○
2月7日（月）	○	
3月7日（月）	○	○

◆国際フェスタCHIBA 6月26日

国際交流・協力団体の活動を広く紹介し、一般の方に国際交流に親んでいただくイベント、国際フェスタCHIBA。新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度は中止にしましたが、今年度はZoomを使ってオンラインでドミニカ共和国やザンビア共和国の現地との中継や、ウクライナ・ネパール・中国出身の講師によるお国紹介、お楽しみ落語会などもりだくさんの内容で実施しました。



ウクライナ出身のユリアさん&ネパール出身のロジさんは、それぞれ英語で母国を紹介してくれました。キリル文字で名前を書いたり、みんなで“ナマステ”ポーズをしたり、オンライン越しに大盛り上がりでした！中国出身の劉さんと章さんからは美味しい食べ物の紹介や世界遺産、お勧め観光スポットなどを紹介いただき、中国には知っているようで知らないことがたくさんあることが分かりました！また、NPO法人フォーエヴァーさんのご協力で、3名の方に落語を披露していただきました。参加者からは大好評で、現場のスタッフもみんな楽しんでました。JICA海外協力隊の2名の講師の講座については、P.7をご覧ください！

4月より、新しいセンター長が着任しました。

国際交流とICT

千葉県国際交流センター長 笹生 健司

国際交流といえば、在住外国人との交流は別として、その国へ行ったり来てもらったりするのが基本でした。しかし現在、新型コロナのため、そのような形での国際交流活動は大変困難な状況です。その代わり近頃盛んに行われているのはオンライン会議等による交流ですが、この場合「移動」そのものの必要がなくなりました。

一方、近年「機械翻訳」が格段に進歩してきました。これは、ディープラーニング技術を使った「ニューラル機械翻訳」という方式の採用によるものです。その結果、以前より機械翻訳の精度が上がってきました。それでも人間による翻訳にはまだまだ遠く及びませんが、使う場面によっては、有用な場合があります。ひとつは災害時です。一刻も早く大切な情報を伝えなければならないとき、注意深く使用すれば役に立ちます。もうひとつは、少数言語への対応です。通訳が見つからない少数言語の場合、突破口になり得ます。

これら技術の台頭は、国際交流には付き物だった「移動の壁」や「言葉の壁」が取り払われる可能性があることを示唆しています。世の中の変化に驚くばかりです。しかし、移動を楽しむ、あるいは言葉を覚えることを楽しむ、といったアナログな要素は国際交流にとって、とても大切なものだと思っています。異国に着いたときのなんとも言えない匂いや味、初めてその国の人に現地語で話しかけて通じたときの喜び、などはかけがえのない体験でしょう。

コロナ禍の中、多くのことがインターネットで行われています。けれども草の根国際交流の醍醐味は、やはり生身の人間同士が触れ合い、それを五感で感じとることだと思います。何せ人とリアルに会うことは楽しいのですから。皆もう長い間我慢していますから、新型コロナが一段落した暁には、国際交流のリバウンドと宴会のリバウンドが同時に起こるのではないかと考えています。そんな日を夢見ながら長い目でセンターの運営をしていきたいと思っています。



千葉県国際交流センター HP & Facebook

千葉県国際交流センターでは、センター主催のイベントや県内の国際交流・協力団体の情報のほか、新型コロナウイルス感染症に関する最新情報や日本語教室のリストなど、外国の方にも役に立つ情報をホームページで紹介しています。またFacebookで最新情報も発信していますので、ぜひご覧ください！



ホームページ



Facebook

今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
多文化共生出前講座(小学生版)	外国人講師との交流を通じて多文化を体験できる小学生向けの講座	9～10月
日本語学習支援者研修(基礎編)(仮)	初心者を対象に、必要となる基礎的な知識や素養を養うための講座	11～3月
日本語学習支援者研修(スキルアップ編)(仮)	実践的な学習支援方法等を学ぶ講座	11～3月
日本語学習支援者の集い(仮)	日本語学習支援者の活動に役立つ情報の提供や、意見交換等を図るための会議	10～3月
語学ボランティア講座(仮)	MICE関連事業やスポーツ大会等におけるボランティアとしての活動を見据えた講座	10～11月
外国人相談基礎知識研修(仮)	在住外国人の生活支援に役立つ、基礎的事項を学ぶ講座	10～11月
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座	10～3月
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間国際交流団体や、市町村国際交流協会担当者による情報交換	10月
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座	10～2月

あなたの街の国際交流・協力団体

NPO 法人生涯学習応援団ちば

事務局長 高橋 健

【生涯学習応援団ちばと2020ちばおもてなし隊】

NPO法人生涯学習応援団ちばは、2007年に設立した団体で、千葉をテーマに歴史講座や見学会、子どもたちとの交流などに取組んできました。国際交流では、2015年度から「2020ちばおもてなし隊」の活動に取組んだことが始まりです。千葉県が募集した「ボランティア参加促進事業」や「次世代ボランティア人材育成事業」に事業提案し、県の受託事業として進めてきました。

2020ちばおもてなし隊は、2020年東京オリンピック・パラリンピックで、千葉県の中学生から高校生、大学生年代の若い皆さんが、自ら考えたおもてなしやボランティアをみんなで力を合わせて実現しようという活動です。

生涯学習応援団ちばが事務局となり、大学生で構成する学生団体おりがみのメンバー、千葉県スポーツコンシェルジュ及び千葉県国際交流センター、その他関係者の皆さんと協力して運営をしています。

【これまでの主な活動】

- ◆2016年8月、リオデジャネイロで開催されたパラリンピックに出場する選手の激励と見送りを成田空港で実施
- ◆2017年7月、千葉県のオリンピック開催場所となる幕張新都心のバリアなどを高校生たちが調査し、その結果を千葉県や千葉市に情報提供
- ◆2018年7月、世界女子ソフトボール選手権大会の出場選手を成田空港で出迎え、また、イギリスチームの選手と交流活動を実施
- ◆2019年11月、成田山新勝寺の参道で、中学生・高校生が外国人ゲストとおりがみの独楽づくりを一緒に行う交流活動を実施
- ◆2019年12月、神田外語大学を会場にした「ボランティアトライアル」で、留学生、在業外国人と中学生～大学生が日本文化やパラスポーツ体験で交流
- ◆2021年2月、オンラインのフォーラムで、千葉ゆかりの外国人を交え、中学生～大学生がおもてなし活動のアイデアについて意見交換
- ◆今年のオリンピック・パラリンピックの事前キャンプで千葉を訪れる選手たちのために、動画制作などを通じてのおもてなし

【2020ちばおもてなし隊の目指すもの】

以上のような活動の中で、私たちは「つながり」や「継続」を重視してきました。継続的におもてなし活動に参加頂いた学校があり、また高校生の時におもてなし活動に参加した方が、大学進学後も「学生団体おりがみ」に参加して一緒に活動するなどの成果もありました。

オリンピック・パラリンピック終了後も、このような繋がりを基本に、みんなで一緒に「やってみたいを実現しよう！」をテーマに様々なボランティアに取組む機会を考えていきたいと思えます。

<お問合せ> NPO法人生涯学習応援団ちば 事務局

TEL & FAX : 043-304-5545 / 携帯電話 : 090-9205-3450 (担当 : 高橋)

E-mail : lle.ouendanchiba@gmail.com



幕張新都心で車いすや視覚障害のある方にとってのバリアをチェック



成田山の参道にある「成田観光館」で、外国人ゲストと折り紙でコマを作って交流する中学生・高校生



イギリスチームと交流する高校生(世界女子ソフトボール選手権大会)

新型コロナウイルスの世界的な蔓延に伴い、世界中から約1,800名のJICA海外協力隊が緊急帰国してから1年経ちました。感染状況が落ち着いた国では協力隊の派遣が再開しています。6月26日（土）の国際フェスタCHIBAではそんな、日本に一時帰国したものの任国に戻ることができた隊員に、現地から生活や活動の様子を伝えていただきました。

ドミニカ共和国 ～野宮亜華沙(のみや あかあしや)隊員～

ドミニカ共和国は中米にある常夏の島国で、昼夜問わず町には音楽があふれています。野宮さんは現地で同僚と共にゴミ削減に取り組んでおり、発表では町の様子やゴミの最終処分場の様子を見せてくれました。ドミニカ共和国では他の途上国同様、最終処分場に未処理（焼却、破碎等をしない）のゴミがそのまま投げ捨てられている状況です。日本もドミニカ共和国同様島国であるためゴミの廃棄場所には限りがあり、今のままゴミを出し続けると約20年（全国平均）で捨てる場所がなくなってしまうとのこと…。ドミニカ共和国でも日本でも、自分や他人の行動の結果起こること（ラベル付き/なしのペットボトルを購入し続けた後の社会、など）を想像してみる、どのようにゴミを減らしていけるかを考え続けることが大事だということでした。



ザンビア共和国 ～原汐音(はら しおん)隊員～

ザンビア共和国はアフリカ南部に位置し、73の民族がそれぞれの文化や言葉を持ちながら一度も民族紛争を起こすことなく平和に共生している国です。原さんは小学校教育の職種で、学校で理科や数学を教えています。活動の様子として、かけ算の九九に苦戦しているザンビアの中学生たちや、日本語や日本の歌には興味津々で、楽しそうに“パブリカ”を歌う生徒たちの様子を見せてくれました。また、ザンビアでびっくりしたことを3つ紹介してくれました。



①砂糖が好きすぎる（紅茶1杯に砂糖をスプーン5～8杯入れる）、②「すぐ」は「すぐ」でない（職員会議は2時間遅れで開始）、③人々がみんな優しくすぎる（たった1日会えないだけで「I miss you.」）だそうです。ザンビアと日本の違いに驚きつつ、ザンビアやザンビア人への愛に溢れた発表でした。

2020年度は協力隊員が全員帰国し、協力隊の新規募集も中止されていましたが、今年5月には1年ぶりに春募集が再開され、今も続々と隊員たちは任国に戻ったり、新たに派遣されたりしています。日本、そして世界の新型コロナウイルスの状況はまだ終息には程遠いですが、感染防止に努めつつ、持続可能な社会を作るためにできることから取り組んでいきましょう。

お気軽にお問合せください♪

千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 国際協力推進員 木村 明日美
 TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441
 FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp





千葉県から世界へ!

ナミビア共和国



※外務省ホームページより引用

福島嵐(らん)さんは、2019年より約1年間、ナミビア共和国に小学校教育の職種で派遣されていました。新型コロナウイルス感染症の影響で、任期の残り約半分のところで帰国を余儀なくされましたが、帰国後も現地での経験を生かして積極的に活動されています。

ナミビアについて

ナミビア共和国はアフリカ大陸の南西部に位置し、面積約82.4万平方キロメートル、人口約250万人の国です。日本の2.2倍の国土に1/60の人が住んでいるような計算で、モンゴルに次いで二番目に人口密度の低い国と言われています。気候は雨季と乾季がありますが、一年を通して晴れる日が多く、私が住んでいた地域では半年間一度も雨が降りませんでした。毎日が洗濯日和で、手洗した洗濯物を絞らずに干しても数時間で乾くほどでした。厳しい自然環境が作り上げたナミブ砂漠や、野生動物に出会うことができるサファリでは、ナミビアの自然環境の美しさたくましさを感じられます。また、ナミビアに住んでいる様々な民族の人々も魅力的で、私が活動していた町オプウォでは、赤い土を体に塗り裸の姿で生活しているヒンバ族、ロングドレスが華やかなヘレロ族、カラフルなビーズを髪や体に飾ったデンバ族など、様々な文化をもつ人々に出会うことができます。



文化祭で民族衣装を着る子ども達

現地での活動について

私は、ナミビア北西部、オプウォという町にあるカメル小学校に配属されていました。学校では、6年生と7年生の算数、理科、アートの授業と、低学年の算数の補助、週に1度放課後に行う日本文化クラブの運営を担当しました。子ども達の理数科の力を向上させるために、手を動かして学ぶことができる教具や、身近な素材を使った実験器具を手作りして授業で使ったり、低学年の先生に使ってもらったりしていました。授業に必要な器具や教科書、机椅子なども足り



ペットボトルキャップで数を学ぶ子ども達



算数授業についての教員の会議

ていないという日本とは違う環境に驚くこともありましたが、同僚の先生と一緒に手立てを考えていると、「子ども達のために」という同じ目標に向かっていくことを実感できました。

現在の活動との接点

新型コロナウイルスの影響で、2年間の活動期間の約半分を残して帰国しました。慌ただしく千葉へ帰ってきた後、群馬県嬭恋村へ移り、外国人技能実習生の入国が少なく人手不足に困っていたキャベツ農家のお手伝いをしました。仕事の話だけでなく、ナミビアの思い出も聞いていただき、地域密着の仕事の魅力を感じるようになりました。その後千葉市に戻ってから参加させていただいた「ちば自主夜間中学」では、地域に必要なものが市民によって作られている様子に心を動かされるとともに、ナミビアで外国人だった私に現地の人々が温かく接してくれた時と同じような優しさを感じました。現在は、群馬県で英語イマージョン教育に取り組む私立小学校に勤務しています。子ども達には、いつか日本や世界をリードしていく存在になってほしい、また、周囲の人と関係を築き、助け合えるような優しい人になってほしいと願いながら、仕事に取り組んでいます。



キャベツ農家のミャンマー人技能実習生と

広告募集!

『国際交流っうしん』に 広告を掲載しませんか?

★年3回、各1万部発行★

団体・個人会員の皆様にご案内するとともに、県内の公民館、図書館、各施設に一定部数設置しております。

国際交流に関心のある読者に向けて効果的に情報発信することができます。



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14F

TEL:043-297-0245 FAX:043-297-2753 E-mail:ied@cbb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/へgo!>

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)